



平成23年4月5日
川崎市立柿生中学校内
柿生郷土史料館 情報・研究誌
第34号

—— 首都圏の大地震にも要注意 ——

安政2年 (1855年) 江戸に直下型大地震発生 歴史に学ぶ

—— 前年、安政元年には東海地震と南海地震の2回の巨大地震が発生 ——

安政2年(1855年)10月2日午後10時頃、江戸、荒川河口付近を震源とする、推定マグニチュード6.9の直下型大地震が発生しました。

死者約7000人、重傷者2000人、倒壊家屋1万4000戸で出火は3日まで続き、江戸城も諸門が倒壊し、多くの石垣も崩れ落ちました。

この地震の数日前から水が湧きだしたり、地鳴りが起きたり不審な兆候もありました。

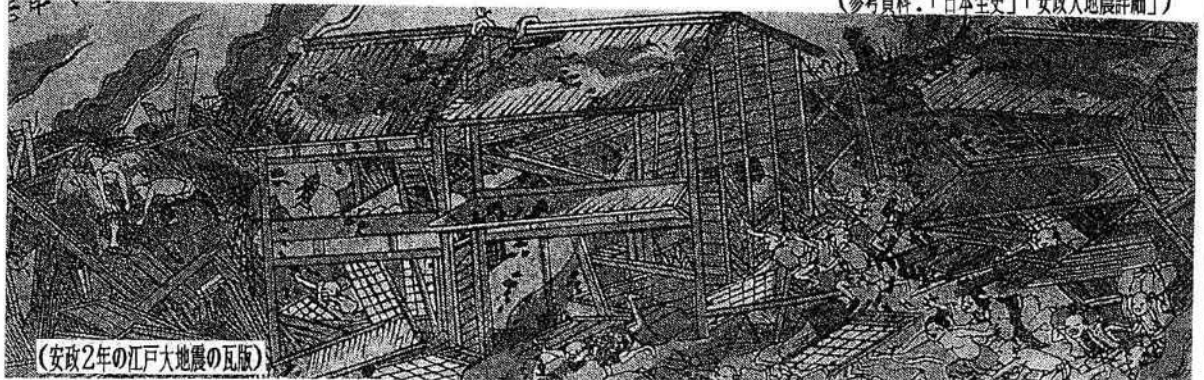
実は、前年の安政元年にも11月4日午前8時から10時頃にかけて、駿河(すまがはら)・遠江(ととうみ)・伊豆(いず)・相模(さま)にかけて推定マグニチュード8.4の大地震(安政東海地震)が発生していました。地震とそれにともなう津波と火災によって死者1万人、倒壊家屋、流失家屋はおびただしい数にのぼったそうです。江戸では、翌5日深夜まで数度の強い地震が発生し大名屋敷の多くが被害を受け、数日後には、買い占めにより物価が上がりました。伊豆の下田では約13メートルの津波が押し寄せ、町はほぼ全滅の状態でした。東海道ぞいの宿場でも、家屋の倒壊、火災による焼失などで多くの町が壊滅状態となり、清水港も全てが焼失してしまいました。

一方、翌5日には伊勢湾から九州南部にかけて大地震(安政南海地震)が発生し、死者3000人、倒壊流失家屋約8万戸あまりの甚大な被害がでました。

このように、安政2年の大地震の前年には2回の巨大地震が発生しています。それも2日の間に2回も発生しているわけです。

今回、3月11日の三陸沖を震源とする東北・関東大震災を考えてみますと余震と同時に「東北・関東大地震」に連動するような動きが東海、新潟、長野方面にもありました。いずれにしても大地震への備えはしっかりとっておかなければなりません。是非、今回の大地震の教訓が生かせるように心がけるようにして下さい。

(参考資料:「日本全史」「安政大地震詳細」)



(安政2年の江戸大地震の瓦版)

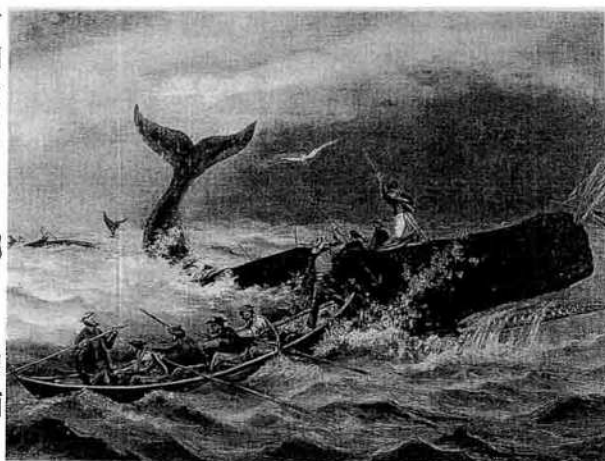
19世紀 世界の捕鯨大国はアメリカだった

世界の捕鯨は、17世紀、アメリカ大陸に移住したイギリス人たちによって大西洋上のナンタケット島付近で本格的に始められました。

19世紀になると、欧米諸国では鯨は一般家庭で使用される照明用や機械の潤滑油として利用され、鯨の髭(ひげ)は縄やコルセット、乗馬用の鞭(むち)、傘の骨などに利用されていました。(肉の大部分は捨てられたそうです)

特に抹香鯨(まっこうじら)は、大変高価で万能薬として珍重されていた鯨蝟(げいろう)ニ抹香鯨の頭部からとった油をとることができ、最上の照明用の油としても重要視されていました。

これらの国々の鯨に対する需要は年々増加し、19世紀には太平洋上にも多くの捕鯨船が現われました。



(アメリカの抹香鯨油 ニューベットフォード博物館蔵)

1841年6月太平洋上の無人島の鳥島に漂着していた土佐の漁師5人がアメリカの捕鯨船「ジョン・ハフラン号」に救助されました。その中の一人に中浜万次郎がいました。

年度	船数	トン数
1843	675	199,192
1844	644	200,484
1845	695	218,655
1846	735	233,189
1847	722	230,218
1848	659	210,541
1849	614	196,110
1850	543	171,484
1851	553	171,971
1852	620	193,990
1853	661	206,286
1854	668	208,029
1855	638	199,842
1856	635	199,141
1857	655	204,209
1858	654	203,148
1859	625	195,115
1860	571	177,049

(E.P.ホウマン【アメリカの鯨捕り】)

一方、1845年4月アメリカの捕鯨船「マンハッタン号」が漂流していた22名の漁師を救助し日本に送り届けました。

この当時、欧米諸国と関わりをもってくる日本人の多くが捕鯨船との出会いであったわけです。これは、左の表を見ても分かるようにアメリカではかなりの数の捕鯨船を有し1843年頃には735艘の捕鯨船が太平洋に繰り出していたことが分かります。そして、その場所も下の地図で分かるように日本近海に集中しているわけです。

1853年7月8日(嘉永6年6月3日)午後5時頃ペリーがアメリカ大統領の国書携えて浦賀に入港しました。この国書のなかにも『毎年数百艘のアメリカ捕鯨船が日本の沿岸で操業している。これらの船舶が嵐にあったら乗組員を保護してもらいたい』とも書かれています。

(アメリカの捕鯨船数) 近年、日本の捕鯨に対し欧米各国から批判の言葉が多く寄せられ、挙げ句の果てには、妨害行動にまで発展しています。

実は、かつて日本近海で大量の鯨がアメリカの捕鯨船に捕獲されていたという事実が上記の説明でお分りだと思えます。

感情論だけではなくもっと冷静に日本の食文化としての捕鯨を理解してもらいたいものです。

(参考資料:「黒船異聞」「新論」)

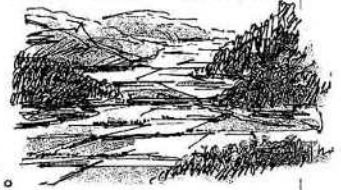


(1865年頃のアメリカ捕鯨船による抹香鯨の捕獲数と捕獲場所)

柿生・岡上の昔話 No.4 「養蚕(ようさん)の始め」(岡上)

おとう おかあ

昔、岡上の里に“お父”と“お母”と“娘”の三人暮らしのお百姓さんが住んでいました。



娘は年ごろになり、その美しさは村でも評判になっていました。

お父とお母は、小さな田んぼを何回もひっくり返しては野菜や米を作っていましたが田からの収入ではよく暮らせませんでした。そこでお父は秋の終わりごろどこへともなく出稼ぎに行ってしまうしました。残されたお母と娘は、馬の助けを借りてせつせと田を耕していました。

冬がやってきました。いろいろのはたで、お母と娘はお父の帰りを指折り数えて待ちに待った正月がきて村の子供たちは、晴れ着を着てはしゃいでいました。けどお父はとうとう帰ってきませんでした。「お父は病で倒れてしまったのではないかなあ」等といろいろ考え、お母は心配になってきました。

ある夜のこと。娘はたいそう心配して馬のところへ行って頼んだのです。「なあ。お父を探してきてくれ。もし探してきたら私はおまえのお嫁さんになってやるからな」と約束しました。馬は、「ヒヒーン」といなき、次の日、山を越え川を渡り、お父を探しにいったのでした。

三日たって馬は、お父を背に帰ってきたではないですか。お母と娘はビックリするやううれしいやら、お父と抱き合って喜んでいました。そして、馬小屋では馬もいないいました。

次の日、娘はお父に馬との約束を打ち明けました。その話を聞いたお父はえらく怒って馬小屋にいて馬を殺してしまったのです。そして、馬の皮は裏山の桑の木に吊り下げておきました。すると、どうしたことでしょう急に大風(おかぜ)が吹いてきて皮は空高くまいあがってしまい、娘のところに飛んでいったかと思うと娘をぐるぐる巻きにして遠くの方へ飛んでいってしまいました。

娘を馬にとられたお父とお母は、えらく悲しんで、夜も寝られませんでした。

ある夜のこと、お父の夢のなかに娘が現われて「お父、3月16日の朝、土間にある白の中を見て下さい。その中には馬の形をしたちっちゃい虫がおります。その虫に馬の皮を吊したあの桑の葉をやってください。そうすれば、やがてその虫は、絹の糸を吐き、美しい繭をつくってくれるでしょう。そしてその繭を売って暮らしてください。そうすればもう、どこへも出稼ぎにいかずその繭で暮らしていけるでしょう」と言うた娘の姿は消えてしまいました。

3月16日の朝、お父は白の中を見ると小さな虫がいるではありませんか。娘に言われるとおり桑の葉を与えるとその虫は美しい糸を吐くようになりました。そして、それを売ってお父とお母は幸せな暮らしをしたそうです。

これが、養蚕の始まりで、岡上の蚕影山(こかげさん^二現在は日本民家園に移築)には養蚕(ようさん)の神様が祀ってあり、祭りには「馬鳴大菩薩(めみょうだいぼつ)」と、馬の字が入った幟(のぼり)を立てよい繭がたくさん採れるように祈るそうです。そして、蚕の背中に馬のひずめがついているのもこんなことがあったからのことだそうです。



(参考資料「川崎物語集」)

(岡上 東光院の蚕影山)

第2回 特別企画展 柿生 郷土史料館(☎988-0004)

ふるさと

■テーマ 佐藤英行 画伯が描く 絵で語る故郷の百年展

■期 日 4月 9日(土)・16日(日)・23日(土)・30日(土)

第3回 展示物 ガイドセミナー 柿生 郷土史料館

ふるさと

□テーマ 佐藤英行 画伯の 絵を見ながら語る吾が故郷

□期 日 4月23日(土) 午後2時より

□会 場 柿生郷土史料館展示場

□内 容 特別企画展展示の佐藤画伯の10枚の絵画をもとに郷土 柿生・岡上の思い出の風景をパネルディスカッション形式で語り合う。

柿生郷土史料館開館のご案内

開館時間

開館：午前10時
閉館：午後 3時

開館日

77-AF	4月 9日(土)	5月 8日(日)	6月以降の開館 予定は「柿生文 化」35号(5月18日発 行)でお知らせ
	4月16日(土)	5月22日(日)	
セナ-P	4月23日(土)	5月29日(日)	
	4月30日(土)	5/29 14時	

※4月5月のガイドツアーやガイ
ドセミナーの予定が右の表のよ
うに変更になりました。

(例)※セナAP→ガイドセミナーを午前と午後を実施 77-A→見学者全員で館内全体ガイドを午前を実施

◎展示物ガイドツアー 説明員による館内全体の展示物のガイドをツアーで行ないます

◎展示物ガイドセミナー 特定の展示物について講座形式で詳しく説明します
実施時間 A(午前) 11:00~12:00 P(午後) 13:00~14:00
(4/23-5/22は14:00から1回のみ)

◎カルチャーセミナー 2ヵ月に1回実施 専門家をお呼びして郷土史に関するセ
ミナーを行ないます。

カルチャーセミナー案内

第28回 柿生カルチャーセミナー
テーマ 「多摩川流域
地名の謎」

講 師 鈴木 茂子 氏 (日本地名研究所)
日 時 5月29日(日) 午後2時~
会 場 柿生中学校 柿生郷土史料館
内 容 多摩川をはさんで東京と川崎で同一の地名があります。こ
の謎を解きあかします。鶴見川文化研究のヒントにも...

市民ミュージアム企画展案内

「梶ヶ谷神明社
上遺跡出土品展」

期日 平成23年4月29日(金)
~5月8日(日)

場所 川崎市市民ミュージアム

内容 昭和42年農民考古学者 持田
春吉氏によって発掘された弥生
時代遺跡の遺物が公開。必見!